

# 重点事業調書

資料 5

担当部局・課名		保健福祉部健康推進課			
新生き生き プラン	重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造			
	戦略のガム	1 保健・医療・福祉充実プログラム			
	施策	7 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">推進</span> 感染症対策の推進			
総合 戦略	基本目標				
	対策				
	課題パッケージ				
<b>重点事業の名称</b>		「若い命を守る」～知ってなくそう！感染症～			
終期設定(年度)	33	予算区分	一般	事項名	特定感染症対策費
現状・課題・根拠	<p>&lt;子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）接種について&gt; 子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス（HPV）であり、ワクチンを接種してウイルスの感染を防ぐことで、子宮頸がんを予防できると考えられている。 県内（国内）における同ワクチン接種件数は非常に少ない水準にあり、若い世代の子宮頸がん患者は増加傾向にある。</p> <p>&lt;梅毒について&gt; 梅毒の感染が全国的に拡大しており、県内でも平成 29 年の梅毒患者は人口 100 万人あたり報告数が全国 3 位となるなど急増し、男性はあらゆる世代で、女性は若い世代で増加していることから、保健、医療、教育及び警察等との連携を図りつつ対策を講じる必要がある。</p> <p>&lt;HIV（エイズ）について&gt; HIV 感染者の約 6 割を占める MSM（男性間で性交渉を行う者）の感染未判明者が県内で約 500 人と推定されており、平成 29 年の感染者数は依然として高い水準にある。</p>				
事業の内容	<p><b>拡充「若い命を守る」～知ってなくそう！感染症～</b></p> <p><b>1 子宮頸がんの予防</b> 《3,681 千円》 正しい知識を普及する啓発団体と連携し、市町村や教育関係者等、保護者等に適切な情報提供を行うことで、子宮頸がん患者の減少につなげる。あわせて、子宮頸がんの正しい知識を普及する場を増やす。 (1) 「若い女性の命を守る会」（仮称）の設立 子宮頸がん、乳がん、梅毒等の予防対策を活動内容とする啓発団体との協働 (2) 研修会の開催及び講師派遣 ①地域編：市町村職員及び保護者等 ②学校編：教育関係職員等（保健教諭等） (3) 予防接種相談ホームページの開設（メール相談） (4) ハタチの検診キャンペーンの実施</p> <p><b>2 梅毒対策</b> 《7,263 千円》 梅毒については、感染した場合の早期診断・治療が重要であることから、検査や治療が受けやすい仕組みを構築する。さらに教育現場等と連携することで、感染リスクの高い階層（若年層等）を中心に適切な情報提供を行うことにより、感染者数の減少につなげる。 (1) 早期診断・確実な治療継続のための医療体制の整備 ・郵送検査キットによる検査の導入（期間限定で実施） ・診療科を越えた連携の推進 ・陽性者へのフォロー体制（相談、QR コードの活用） ・パートナー検診の徹底や治療に來ない患者へのフォロー体制の整備 (2) 普及啓発 ①教育現場との連携 ・中学生や高校生にも分かりやすいまんが形式の啓発資料「梅毒って何？」の作成・配付 ・教員等に対する研修会の開催 ・各種学園祭等での大学生ピアグループによる啓発 ・SNS（LINE、Twitter 等）による情報発信 ・バス・タクシー車内のステッカー広告による周知 ②警察本部等との連携 ・性風俗業従事者（デリバリーヘルス等）に対する普及啓発</p>				

	<p><b>3 HIV (エイズ) 対策</b> 《2,000千円》</p> <p>HIV (エイズ) については、身近な診療所 (現在6か所) において、自己負担1,000円、MSM対象の期間限定検査 (梅毒とセットで年2回各2か月程度) を行っているが、受検件数は伸び悩んでいるため、ハイリスク者層にターゲットを絞り、さらなるMSM関連団体等との連携により、効果的な普及啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H27～29 クリニック検査の陽性率：1.5%</li> </ul> <p>&lt;H27～29 県保健所検査：0.17%、全国保健所検査 (H25 国立感染症研究所調べ)：0.25%&gt;</p>						
事業の意図・効果等	<p>子宮頸がんに関する正しい知識を普及し、子宮頸がん患者の減少につなげる。</p> <p>また、中高生の段階から性感染症の普及啓発を行うことにより、早い段階で意識を持ってもらうとともに、性感染症の感染リスクが高いとされる性風俗業従事者にも普及啓発を行うことは、性感染症への感染防止を図る上で有効である。</p> <p>さら、身近な診療所において、HIV感染のハイリスク者層であるMSMを対象とした期間限定の検査を実施することで、早期発見・治療につなげ、感染拡大防止が図られる。</p>						
事業の目標設定	事業	生き生き指標、重要業績評価指標(KPI) 等	現状値	目標値			
		子宮頸がんワクチンに関する情報をホームページに掲載している市町村数	1市町村 (H30)	27市町村 (H33)			
		梅毒患者の報告数	172人 (H29)	40人 (H33)			
		HIV・エイズ検査受検者数	56人 (H29)	増加 (H33)			
事業費の見積もり	区分	H30 予算額	H31 予算要求額	H32 見込額	H33 見込額	H34 以降見込額	
	事業費(単位：千円)	1,611	12,944	11,444	11,444	0	
	財源内訳	国庫	0	4,131	3,381	3,381	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	1,611	8,813	8,063	8,063	0